

# 減災新聞

第164号

## 噴火の備え上

長野、岐阜両県にまたがる御嶽山(3067m)で、戦後最悪となる60人以上の死者・行方不明者を出した火山災害は、いつ噴火が起きるか分からない活火山の恐ろしさを突きつけた。火山大國一の日本には活火山が110もあり、神奈川県内は箱根山、近隣では富士山(山梨、静岡県)や伊豆大島(東京都)などが含まれている。「そのとき」に向けた備えは――

(渡辺 渉)

かつては噴火していない火山を指す言葉だった「死火山」や「休眠火山」は、もはや使われていない。火山の活動は寿命が長く、数千年間休んだ後に活動を再開したケースもあるため、1960年代以降に順次、定義が見直された。

現在では「活火山」という言葉は、過去1万年以内に噴火した火山か、活発な噴気活動が起きている火山を意味する。

# 活火山 全国に110

の後も91年、2007年と小規模な噴火が続いた。現在は噴火警報が発表される110活火山の一つで、地震計や傾斜計、望遠カメラなどの観測網が整備され、気象庁を中心に噴火の前兆把握に向けた24時間の監視態勢が敷かれている。

こうした「常時観測火山」は北海道や東北、中部、九州を中心に47ある。今後100年程度の中長期的な噴火可能性や噴火した場合の社会的影響を考慮し、火山噴火予知連絡会が選んだ。

このうち、御嶽山同様に近年噴火活動を繰り返しているのが、伊豆大島や三宅島(東京都)、草津白根山(群馬県)、阿蘇山(熊本県)、桜島(鹿児島県)などの23火山。

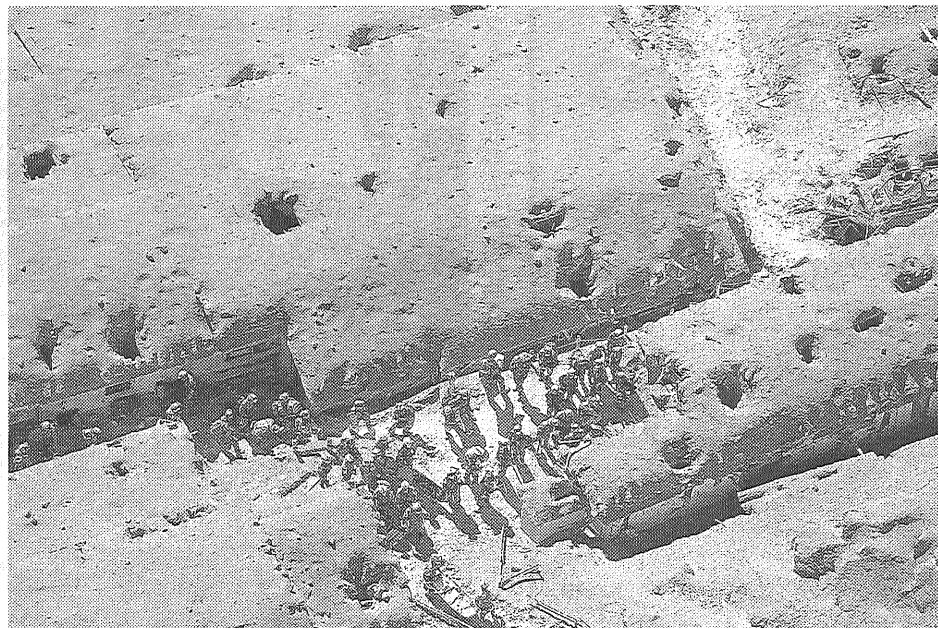
地震や地殻変動、噴気活動などが認められる18火山に

## 自助のヒント

### 噴火警戒レベル

火山活動の状況に応じて警戒が必要な範囲や避難など住民らが取るべき行動を示すため、気象庁が5段階で発表している。2007年に運用開始。常時観測している47の活火山について地元自治体などと協議した上で順次導入している。発表状況は同庁のウェブサイトを確認できる。レベル5(避難)とレベル4(避難準備)は居住地域に影響があるため、特別警報に位置づけられている。今年8月には鹿児島県の口永良部島がレベル1(平常)からレベル3(入山規制)へ引き上げられた。

「減災新聞」は毎週日曜日に掲載します。災害対策や備えに関する話題や情報をお待ちしています。被災地に届けたいメッセージも募集します。住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレスを明記し、神奈川新聞報道部「減災新聞」担当へファクスかメールで。ファクス=045(227)0154、メール=houdou@kanagawa-np.co.jp



火山灰に埋もれた御嶽山山頂付近の山小屋。噴石が直撃したとみられる穴が開いている。＝9月29日午前9時、共同通信社ヘリから

## 箱根や富士山も常時監視

は、箱根山のほか、新島、八丈島(ともに東京都)、安達太良山(福島県)、日光白根山(栃木、群馬県)などがある。このほか、今のところ異

常時観測火山の常時監視は、箱根山のほか、新島、八丈島(ともに東京都)、安達太良山(福島県)、日光白根山(栃木、群馬県)などがある。このほか、今のところ異

常時観測火山の常時監視は、箱根山のほか、新島、八丈島(ともに東京都)、安達太良山(福島県)、日光白根山(栃木、群馬県)などがある。このほか、今のところ異

## オリジナルの備蓄セット

河本総合防災(相模原市中央区) ②



蓄する企業は多いが、「すぐに必要になるものは、従業員一人一人が保管している方がスムーズに行動できる」(河本社長)という。

このほか東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市の企業とタイアップして商品化したレトルト食品の販売も手掛けています。「ふかひれ広東風スープ」など3種類があり、

河本総合防災(相模原市中央区)が力を入れているのが、オリジナル防災用品写真の企画・販売だ。

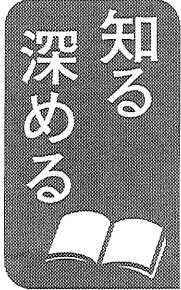
中でも企業からの注文が多いのが「3Days(スリーデイズ)ライフカプセルII」(希望小売価格7020円)だ。水、食料、簡易トイレなど6品目がA4サイズの箱に入っている。オフィスの机の引き出しやキャビネットなどに書類と同様に収納できるのが特徴だ。

地震の直後に手元にあると役立つものを選び、パッケージした。倉庫など1カ所に防災用品を備

## オフィスの机に収納



河本社長は「防災食は食べ慣れないものが多い。しかし、これらは普段の総菜としても活用できる」と話している。製品は同社ウェブサイトででも販売中。アドレスは<http://www.be-ka.com> (秋山 理砂)



御嶽山の噴火で、気象庁は火山灰が風に乗って居住地域の近くまで影響を及ぼす恐れがあるとして注意を呼び掛けました。

## えマスク着用 火山灰への対処法

りの火山灰は粒の角がとがっており、目の角膜などを傷つける恐れがあります。

Q どのような対策が必要ですか。

A 外出は極力控えたほうがいいです。窓やドアを開け、火山灰が室内に入らないための措置も必要です。清掃のために屋外に出る際は、ゴーグルやマスクを着用し、コンタクトレンズは外してください。